

プロジェクトコーナー

—プロジェクト完了報告—

＜環境保全と3年後からの継続的収入をめざす「緑の募金公募」事業が完了しました＞

ほとんど木がない口ハス山地の村ラムフゴンとバンカルの40haに、マホガニーなど多用途樹種の苗8,400本とマンゴーなどの果樹苗4,288本の植栽が完了しました。

(社)国土緑化推進機構(緑の募金)の助成、地元政府の協力でPFPとHANDSが実施したことを示す看板も立ちました。植林と等高線耕作で土壌浸食を防ぎ、3年後からの果実販売で継続的収入を約束するこの事業を現地は「年金事業」と呼んでいて、住民もこの夢の実現に向けて、間作のコーンや根菜類栽培の傍ら、苗木の手入れに努めています。



—プロジェクトその後—

★ NIA 助成事業の研修生3名、ポルールのパン工場に就職 ★

前号で厳しい求職活動をお伝えしたNIA(新潟県国際交流協会)助成の技能研修のその後です。担当のジョイから、ポルールにパン工場ができて、研修生のマーシー、マリロー、グレースの3名が雇用されたというメールが届き、9月の訪問時に訪ねました。

工場と店舗を兼ねる20m程度の建物は、研修会場の旧ポルール小学校から3分ほど離れた集落の中です。施設はバランガイ開発事業の一部としてUNDP(国連開発計画)が支援し、運営はバ



パン焼き窯の薪の調整担当・マーシー

ランガイ議会が行います。小屋の中には炭焼きがまのような大きなオープンがすえられていて、焼きあがり寸前のパンのいい匂いが漂っていました。日が暮れかかっているのに、店頭のカースには山盛りの菓子パンが並んでいます。朝が早い住民の翌朝食用でしょうか。私たちもそれぞれ20-30個買って、翌日巡回診療で訪ねるツガルの子どもたちへのお土産にしました。種類も10種類以上と多く、一つ1ペソ(2円)では申し訳ないほど美味しいパンです。

ジョイのメールにはもう一人、サムラングで農業機械技術を学んだローエルが、G.サントスの町工場で実習しているという報告もありました。

★ ポルール、サムラング研修事業に関連して MIT 訪問 ★

技能研修を計画・実施してくださったMIT(Marbel Institute of Technology and Driving School)を訪問し、お話を伺ってきました。MITは日本でいえば、専門学校・各種学校にあたり、2年制、1年制の機械工学・情報工学(コンピュータープログラマーなど)・電子工学・電気工学コースと、短期間の運転技術・コンピューター技術・電気配線・食品加工・パン菓子作り・ドレスメーカーのコースがあります。技術がきちんと身に付く分、学費は高めです。ルバトン校長先生からは「2年制コースの学生は卒業後、韓国、サウジアラビア、クエートなど海外へ働きに行くのが目的。学校で就職先の紹介もしています。しかし、先住民族のための技能研修は、それとは別です。私たちは彼らのために何かしたいと考えていますし、先生方も教えることを楽しんでようです。」という頼もしい言葉を聞くことができました。そして、山の中へ泊り込んで教えてくださった先生方と握手をし、感謝の気持ちを伝えました。